

「今、小児歯科でMFTが必要なわけ」

福岡歯科大学 成長発達歯学講座 成育小児歯科学分野
教授

尾崎 正雄 (おざき まさお)



1956年11月 福岡県福岡市に生まれる
1981年4月 福岡歯科大学小児歯科学講座入局
1982年9月 カリフォルニア大学サンフランシスコ校留学（客員
助教授）
1996年8月 福岡歯科大学講師（成育小児歯科学）
1997年4月 福岡医療短期大学助教授（歯科衛生学）
2000年10月 福岡歯科大学准教授（成育小児歯科学）
2010年11月 福岡歯科大学教授（成育小児歯科学）
現在に至る

不正咬合のお子様で、お口の機能（食べ方や飲み込み方）が劣っているお子様をよく見かけるようになりました。その子たちは、食品の軟食化からか、舌の動きが悪く咬む力がないようにみえます。また、口呼吸も多く、アレルギー疾患や上気道感染しやすい小児も多くなっています。進化の二十四法則のうちの一つに、一群の器官の進化過程で、器官の前進的進化は半面に必ず退化を伴うことが言われていますが、口腔内の機能も退化してきているように思えます。人類誕生から500万年の歴史は、食文化の変遷ともいえます。人間は、長い歴史の中で硬い木の実や木の根を食べることから道具や火を使って食品を調理し、柔らかな食べ物を手に入れました。その結果、大きな脳を獲得し、その代償として小さな顎となりました。今後、私達小児歯科医の元に訪れる患者は、顎や歯列や口腔機能に異常がある小児が増えてくるでしょう。私は、子どもの口腔機能の発達の中で、基本的な嚥下や咀嚼機能を獲得させることが重要だと考えています。我々小児歯科医で何か出来る事が有るのではないのでしょうか。問題提示をしたいと思います。